

# TPDS NEWS



※ TPDS = Tokyo Plastic Dental Society = (一社) 東京形成歯科研究会

**Vol.1**

配信日：2019年7月8日

配信元：(一社) 東京形成歯科研究会 事務局

## 施設長エッセイ

台湾の学会の延長で沖縄での6月20からバカンスを取る予定が見果てぬ夢の実現へ！！

### 老人と海との出会い

小生の趣味は学生時代から御蔵島診療に携わりその時、見た黒潮の大海原に飛び跳ねるカジキマグロを見てからの始まりで、その後老人と海を連想していつかは巨大カジキを釣りたいと夢を追い続けております。釣りの長い遍歴から以前小生の生き様を“見果てぬ夢に”としてエッセイを書きました。その見果てぬ夢の一つが沖縄で実現しました。



エッセイ(書籍)

なんでも長く頑張れば実現するものだと感じます。

以前小生が所属していた、JGFA JAPAN FISHING ASSOCIATION オナーボートでの活動で35年間海に出てチャレンジしてきましたが、一匹も釣り上げることが出来ずマスコミで有名な釣り名人服部 善郎氏がその釣れない内容をエッセイにしると言う事で発刊した経緯があります。まさにヘミングウェイの老人と海の“見果てぬ夢”地に行ったものでした。

### 35年求めてきた出会い

台湾の会の延長として沖縄に行ってきました。沖縄の座間味沖で35年間体験が少ない80ポンドの大型リールであったが、けたたましい歯車の音が聞くことが少なかったわけですが、今回続けざまにけたたましい音が3回も聞くことが出来ました。その内一本は音も激しく鳴り続け一気に1,000メートルもラインが出てはるかかなたにカジキの飛び跳ねる雄姿が確認できました。にわかに船頭を含めてファイトのスタンバイに入り、ロッドを持ちスタンド式のファイティングチェアに取り付けて巻き込みの準備に入り充分カジキの口にフックしたことを認識してラインが止まったところから巻き込みに入りました。今までにない、異常な重さの巻き込み巨大カジキと格闘が開始、その異常な重さに興奮が隠せませんでした。カジキが力をもって走るとすぐにラインブレイクが起こります。ですから走っている時には巻き込みの負荷をかけることの無いように慎重に行いました。カジキは船側に向かって走るときは、ラインがたるまない様に急いで巻き込みます。何度かカジキが走り泊り巻き込みの繰り返し行い、決して力で巻き込まない様になりました。

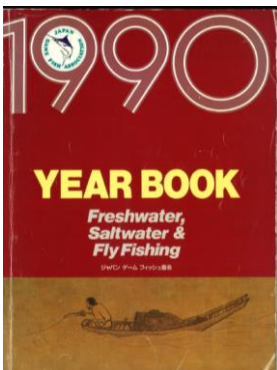
## 巨大カジキと死闘結果

その繰り返しで1時間30分ファイトを行い少し弱ったところを見はかり巻き込みを開始しました。300メートルにちかづいて来た事に深く海の底に潜りしばしの静寂が船上に流れまさに、巨大カジキと死闘の瞬間でした。カジキの気が緩んだ時に一気に巻き込みを開始後50メートル付近までちかづいて来たときにまた最後の力で一気にもぐり始めその瞬間折れるはずがない、カジキ釣りのロッドが一気に折れてしまいました。もはやこれまでと思いましたが、取り込み役のリダーマン(取り込むときにラインのリダーでカジキを寄せる役)慎重におお間のマグロ漁師のごとく慎重に引き寄せ巨大カジキ頭が見え始めはじめました。その時にギャクフマンが急所めがけて打ち込み弱ったところでカジキの吻をつかみ取り込みのギャフを取り付けました。この時の船上は安のため息が流れました。この雰囲気は大間のマグロドラマのマグロ取の映像さながらでした。



しかしこれでは終わらなくこの巨大カジキを船上に揚げなくてはなりません。大人3人掛かりでも船の上に揚げる事ができず、4人がかりでようやくあげることが出来ました。このカジキの吻は歯科大の解剖に尽かさず送った。吻は比較解剖上意義がある組織と言う事で、自分が作ったルアー【疑似餌】がよく傷がついていることを考えると解剖上興味がある事である。

## 釣りとの教訓



以前エッセイにも書きましたが、釣りは中国の教えから学ぶ人生のスタート。中国の北宋時代に山水思想が確立されて、その山水画には人生の構図が書かれていると言う事である。確かに水辺がありそこには釣り人が居て山道の階段の途中にはいろりがありその式は本を読む文人はるかかなたの幽山には仙人が済む。この思想は釣り人がめぐり地方を行脚しながら学問の研鑽をつみ最後には幽山に済み仙人となり下界を見渡す。と言う人生模様ストーリーである。人の営みの原点は魚釣りから始まり最後にはその釣り人が誰とも行えなかった桃源峽に辿り着いた人物を考えればわかる。日本の一休は“漁夫生涯竹一竿”として漁夫を讃えている。私は、自分の職業に誇りと夢をこれらに重ねて、追い求めている。まだまだやり遂げない見果てぬ夢を追い求めて。

一般社団法人東京形成歯科研究会施設長／王子歯科美容外科クリニック 総院長 奥寺 元